

高度化された陸上無線システムに対する定期検査のあり方に関する検討会（第6回） 議事録

1 日時

令和2年10月28日（水） 16:30～17:30

2 場所

WEB会議

3 出席者（敬称略）

座 長 : 山尾 泰

構 成 員 : 石井 望、天野 茂、海老原 貢、小野沢 庸、加藤 千早、加藤 康博、
川瀬 克行、児玉 有康、後藤 治彦、佐久間 洋、佐野 弘和、末永 力也、
武田 一樹、竹之下 早苗、谷澤 正彦、拮石 康博、本多 美雄、丸田 純一、
三浦 龍、毛利 政之、渡辺 照重、渡辺 知尚
安藤 桂（前田構成員代理）、石井 陽子（小林構成員代理）、
内藤 知照（長澤構成員代理）、福家 裕（齋藤構成員代理）

オブザーバ : 齊藤 春夫、藤井 勝巳

事 務 局 : 電波部 鈴木部長

移動通信課 翁長課長、大野課長補佐、山下課長補佐、下地係長、松元官

電波環境課 松宮推進官

基幹通信室 宮澤課長補佐

関東総合通信局無線通信部 棚田次長

4 議事

(1) 前回議事録の確認

第5回議事録（資料6-1）の確認が行なわれ、特段の意見がなかったため承認された。

(2) 意見募集の結果について

事務局から資料6-2に基づき説明が行われた。「3Gについては、省略の対象外」についての補足として、仮に3Gと4Gの設備が一つの基地局内にあった場合には、4Gが測定省略で、3Gが測定となる旨の説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり。

山 尾 座 長 : 報告書に追記する必要はないと思うが、測定を省略してその結果どうであったかというのをフォローする必要があるかもしれないと感じた。事務局とも意見交換をしたが、今回測定の省略を開始して、将来的に他のシステムにも同じように測定の省略を拡張するという段になったときに、いまやっているのは大丈夫なのかという点で、今回測定の省略をした結果、どれほどアラームが出て、すぐ保守で駆けつけて対応したということがどれほどあったのか、の記録をある程度、総務省としてもモニタリングしておきたいのではないかと。個々の細かいデータでなくても、統計的なデータでいいのかもしれないが、将来、この測定省略について振り返ったときに、問題なかったことを示すデータを、実際に運用する事業者の方でとることを検討できないか。

今のような保守運用でどういう実績だったのか、というデータは基地局を運用する事業者でとれないだろうか。

報告書には追記する必要は無いが、今後、制度化がなされるが、データの取得について総務省と事業者で相談してほしい。そうすれば、この施策が将来につながっていくのではないかと考える。

事 務 局 : 新しい制度を整理して、新しい取組を始めるにあたり、将来的にこの制度がちゃんと運用されているか、どういう課題があるのか振り返ることを想定すると、今回の制度において、実績をエビデンスとして残すことができれば、将来の制度検

討においても有益と考える。そのため座長のコメントはありがたいことだと思う。ぜひ事業者の協力を得て、そうした形について検討していきたいと思う。

安藤構成員代理：コメントありがとうございました。意図目的は理解した。どういったデータが出せるか、有効であるかを引き続き総務省と相談して進めていきたい。

毛利構成員：弊社も今回の趣旨について、対応したいため、総務省移動通信課と相談できればと思う。

佐野構成員：二社と同じだが、座長が仰ったとおり、何らかのデータが出せないかを引き続き相談したいと思う。WCP社も同様に考えている。

栝石構成員：弊社も三社と同じように、どういったデータが出せるか、どういったデータが有効かという点について、総務省と相談しながら進めていければと思う。

(3) 報告書とりまとめ

座長より、報告書案について、追加で意見があれば翌日の午前中までに事務局に連絡することを周知した。修正点があれば、事務局において修正した上、公表すること、修正内容については座長に一任することを確認した。

(4) 新世代モバイル通信システム委員会への報告について

事務局から資料6-4に基づき説明が行われた。事務局より資料6-4を一部修正して、報告書の公表の際に報告書の概要版として活用したいとの発言があり、問題ない旨確認された。

(5) その他

検討会の終了にあたり、総務省の鈴木電波部長より挨拶があった。

また、事務局より、報告書の決定版や公表日については別途連絡する旨を周知した。

(閉会)